

開講科目名／Course	母性看護援助論Ⅰ	
ターム・学期／Term・Semester	2025年度／Academic Year 3 学期／Third	
開講区分／semester offered	3 学期／Third	
単位数／Credits	1.0	
学年／Year	2	
主担当教員／Main Instructor	濱 耕子	
担当教員名／Instructor	徳丸 由布子、永松 いずみ、濱 耕子	
必修・選択 ／compulsory subject	必修	
講義形態 ／Class Type	講義	
授業回数	10	
科目の目的と概要	妊娠期、分娩期の生理と異常および心理・社会的特徴とその看護について学ぶ。	
到達目標	1. 妊娠期・分娩期の生理的变化について述べるができる。 2. 妊娠期・分娩期の母親と胎児の状態をアセスメントすることができる。 3. 妊娠中の母親と胎児の管理について述べるができる。 4. 妊婦・産婦の正常や異常経過およびその看護について述べるができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	01. ガイダンス、妊娠の生理 02. 妊娠の経過 03. 妊婦と胎児のアセスメント/母体と胎児の管理 04. 妊婦の看護 (1) 妊娠の届け出、健康診査、妊娠中の食生活 05. 妊婦の看護 (2) 日常生活の過ごし方と保健指導 06. 妊娠の異常と看護 (1) 妊娠悪阻、流産・早産、妊娠高血圧症候群 07. 妊娠の異常と看護 (2) 妊娠貧血、常位胎盤早期剥離、前置胎盤、多胎妊娠、糖代謝異常合併妊娠 08. 分娩の定義/分娩の生理 09. 分娩の経過/産婦の看護 10. 産婦の異常と看護	
その他の授業の工夫	学生が講義参加できるように講義中に学生の意見を聞く。	
時間外学修	事前学修：系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論のテキストに目を通して講義に臨む (9h)。 事後学修：テキストや配布資料を用いて復習する (10h)。	
評価方法と評価割合	筆記試験 (100%) から評価する。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 母性看護学[2] 母性看護学各論 (医学書院) 病気がみえる vol.10 産科 (メディックメディア) 講義の中で適宜資料を配布する。	
参考書		
履修する上で必要な要件	母性看護学概論を履修済みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	濱耕子：病院の助産師 永松いずみ：病院の助産師 徳丸由布子：病院の助産師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	エビデンスに基づいた看護と臨床経験をいかした看護を実践し、その理論と確かな技術を学生に指導する。	